

われら小千谷市消防団

No. 37

団報 火の見やぐら

火事と救急は119番

発行 小千谷市消防団本部（広報部）

2021年3月号



文化財防火訓練（平成町慈眼寺に於いて）

令和2年4月から令和3年3月まで主な活動内容

- | | |
|-------------------|----------------|
| 4月・春の火災予防運動 | 11月・消防団備品点検 |
| ・辞令交付式 | ・秋の火災予防運動 |
| ・幹部、女性部及び新入団員規律訓練 | 1月・消防出初式 |
| 9月・地区別防災訓練 | ・文化財防火デー |
| 10月・第1回副分団長以上会議 | 3月・第2回副分団長以上会議 |
| | ・車両交付式 |

新型コロナウイルスによる消防団の対応について

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、年間計画の多くが中止を余儀なくされ、また、行事の開催に於いては人数を制限するなど大幅な変更措置が取られ、異例の年となりました。

なお、消防団員等福祉共済では、新型コロナウイルスと診断され保健所等の行政機関の管理の下で宿泊治療・自宅療養した場合は、その療養期間についても入院見舞金の支給対象となりますので、消防本部総務課へ連絡して下さい。

春の火災予防運動

春の火災予防運動が4月1日(水)から7日(火)の期間で行われました。今年度の全国統一防火標語は『**ひとつずつ いいね！で確認 火の用心**』です。連日各分団による防火広報が行なわれましたが、残念ながら一日消防署長は中止となりました。

消防庁長官表彰並びに日本消防協会表彰

消防庁長官定例表彰では大橋義久団員に永年勤続功労章が授与され、4月1日(水)、消防本部3階講堂にて伝達式が行われました。

また、久賀副団長、吉原分団長、大淵分団長の3名に日本消防協会より功績賞、精績賞の表彰があり、4月5日(日)の辞令交付式後に富井団長より授与されました。



辞令交付式並び幹部・女性部及び新入団員訓練

4月5日(日)、消防本部3階講堂に於いて消防団員辞令交付式が行われました。辞令交付式に先立って消防団互助会役員会が行われ、令和2年度互助会役員の選出や令和元年度事業報告及び収支決算報告、令和2年度事業計画などが承認されました。

互助会には福利厚生費や助成費などがありますので皆さん有効活用いたしましょう。

辞令交付式では新たに昇任された幹部の皆さん、新入団員の皆さん1人1人に富井団長から辞令が手渡され、新入団員を代表して第7分団の横山博行さんが宣誓書を読み上げました。



その後、新入団員は引き続き講堂にて座学、規律訓練を受け、その後庁舎車庫内へ移動しての機械器具取扱訓練を受け半日の研修が終了しました。



また、幹部と女性部は庁舎裏にて訓練礼式の規律訓練を行いました。



第2回火消し会親善ゴルフコンペ

8月9日(日)、火消し会親善ゴルフコンペが小千谷カントリークラブに於いて行われ、消防団員と消防署職員の親睦が深められました。

優勝は第8分団野中副分団長が飾りました。また、第2分団佐々木部長は見事(?)ホールインワンを獲得されました。



令和2年度小千谷市地区別防災訓練

9月27日(日)、小千谷市地区別防災訓練が、対象地区を内ヶ巻、川井本田、新田、真皿、冬井、戸屋とし、各町内指定の一時避難所及び総合体育館に於いて行われました。

消防団からは、本部と管轄である第7分団が情報収集伝達訓練を、女性部が負傷者応急処置訓練のサポートを行いました。



原発事故を想定した今回の訓練では、住民の屋内退避から始まり、避難訓練で総合体育館へ移動した後、スクリーニング、ヨウ素剤配布、原子力災害研修という訓練が加わりま

した。第7分団の団員も間野副団長に情報伝達後、それらの訓練に参加しました。



雨天の中参加された皆さん、お疲れ様でした。

第1回副分団長以上会議

10月21日(水)、19時より第1回副分団長以上会議が消防本部3階講堂にて於いて行われました。

感染対策のため、参加人数を制限しての会議となりましたが大塚市長、富井団長の挨拶で始まり令和3年度ポンプ操法協議大会の取組み等についての議題や下半期の消防団事業についての報告連絡事項などが話し合われました。



また、会議の前に今年度の各表彰者の代表として新潟県知事・功績賞を表彰された第6分団・関分団長、第7分団・荻野分団長、第8分団・浅田分団長の3名に大塚市長から授与されました。3名には今後も幹部として消防団業務に尽力してもらいたいと思います。



備品点検・懇談会

11月1日(日)消防団備品点検と懇談会が消防本部庁舎にて行われました。今年は集合方式で、本部員と消防署職員が分担して資機材の点検を行いました。



今回は実際に水を吸水してのポンプ点検を行い概ね良好ではありましたが、1年前に入れた不凍液が出てきたり、真空オイルが空になっている小型ポンプがありました。日頃の点検を確実にし、有事の際に不備が無いようにしっかりと備えてもらいたいと思います。



備品点検と並行して消防本部3階講堂に於いて行われた懇談会では、各分団の部長以上が参加し施設の設備、備品に関する要望等が話し合われました。

令和2年度北魚沼地区支会役員・幹部研修

11月14日(土)、北魚沼地区支会役員・幹部研修会として、魚沼市水の郷工業団地内にある魚沼醸造、魚沼市大浦の赤城山西福寺を視察研修しました。



秋の火災予防運動

秋の火災予防運動が11月9日(月)から15日(日)の期間で行われました。

今年度の全国統一防火標語は

『その火事を 防ぐあなたに 金メダル』

です。

連日各分団による防火広報が行なわれましたが、新型コロナウイルスの影響により消防フェスティバルは開催中止となりました。



ひとり暮らし高齢者宅訪問

11月17日(火)、秋の火災予防運動に伴い、ひとり暮らし高齢者宅への防火訪問が行なわれ、女性部からは石田部長が参加され、消防本部予防課職員らと合同で防火チラシの配布や住宅用火災警報器の説明・点検などの防火指導を行いました。

消防出初式

1月10日(日)、令和3年消防出初式が行われました。新型コロナウイルス対策として、今回は分列行進と一斉放水は中止となり、各分団は車両による防火広報を行いました。また、二荒神社に於いて無火災祈願の神事が執り行われた後、式典は会場を消防本部3階講堂に移し参加人数を絞っての開催となりました。



無火災表彰町内

100世帯未満（15年無火災）

山本（45年連続） 稲場（15年連続） 四之町（15年連続）

100世帯以上300世帯未満（10年無火災）

稲荷町（41年連続）

300世帯以上500世帯未満（5年無火災）

桜町下（30年連続） 三仏生（5年連続） 小栗田（31年連続）

500世帯以上（3年無火災）

該当なし

小千谷市消防団協力事業所

- ・小杉土建工業株式会社

上記事業所が加わり、全部で15事業所となりました。
他に小千谷市では下記の事業所が参加しています。

- ・日本ベアリング株式会社
- ・株式会社第一測範製作所
- ・株式会社共栄農工社
- ・エヌ・エス・エス株式会社
- ・丸山建設株式会社
- ・越後おぢや農業協同組合
- ・阿部幸製菓株式会社
- ・株式会社北越トラスト
- ・ケーエスエス株式会社
- ・オヂヤセイキ株式会社
- ・ユキワ精工株式会社
- ・理研精機株式会社
- ・秀和建设株式会社
- ・エヌエスアドバンテック株式会社

文化財防火デー

1月26日(火)平成町内の慈眼寺境内に於いて、文化財防火デーによる防火訓練が行われました。

当日は晴天に恵まれ、消防団と消防署と自主防災会が訓練を実施しました。

訓練では、本堂で出火した想定で文化財の持ち出し訓練が行われ、続いて第2分団と消防本部による放水訓練が行われました。



その後、小千谷幼稚園の大勢の園児が見守る中、園職員さんらによる消火器訓練が行われました。



消火器を構える先生に「がんばれ～」と園児の大声援が飛び、ほのぼのとした瞬間でした。

最後に、富井団長と村山署長から講評を頂き訓練を終了しました。平日の開催ではありましたが、参加していただいた団員の皆様ありがとうございました。

第四次消防団整備計画中間見直し

第四次小千谷市消防団整備計画は、10ヶ年計画として制定され、前期の五年が令和2年度で終了します。整備計画総論4では、施策が社会情勢等の変化に沿った内容であるか概ね5年を目途に必要な見直しを行うとあり、節目となる今年度検討会を設置し、消防団員の確保につながる活動しやすい環境づくりを目指し見直しを行いました。

様々な課題が検討され、結果を市に提出し3月1日付で市長より決裁をいただきました。

中でも団員確保が深刻であった第5分団の塩谷の軽積載車及び小型ポンプ、消防器具置場は岩間木への統廃合となり、それに伴い組織や出動分担等も変更があると思います。連絡や確認を徹底し、周知をお願いします。

車両交付式

3月28日(日)、五辺にポンプ車CD-I、桂に積載車が配備更新されます。新しい資機材に限りませんが、しっかりと取り扱いを学び、末永く活用していくことを目指してください。

編集後記

第四次整備計画中間見直しでは、令和3・4年度にシールド付きヘルメット、令和5・6年度には活動服の支給が予定されています。今期はすでにヘッドライトが配布されていますが、災害現場において安全に活動するための装備ですので、管理と活用をよろしくお願いします。

記事中にもあるとおり団員不足の問題は深刻です。解消にはなりません、将来第六次整備計画くらいには車両やAIの技術が発達し、ポンプ車や積載車が本部の指令を受け自動で現場近くに配車…なんてならないかなあと写真を見返しながら妄想しています。

この1年はコロナ禍により多くの行事が中止となり団報も1回のみ発行となりましたが、来期はコロナが収束に向かい、行事が例年どおり行えるようになってもらいたいものです。



団報 火の見やぐら No. 37

発行 小千谷市消防団本部
事務局 小千谷市消防本部総務課内
住所 小千谷市城内3丁目1番9号

TEL 0258-83-0236

FAX 0258-82-0209

Eメール syobou-soumu@city.ojiya.niigata.jp